

単収向上と作付拡大で 一層の**麦**の生産拡大を!

小麦「さぬきの夢2009」、はだか麦「イチバンボシ」は、ともに実需者から強く増産が求められています。単収向上と作付拡大（作付目標：小麦1,900ha、はだか麦800ha）で、より一層の麦の生産拡大をお願いします。

2019年産（平成30年播き）においても、「排水対策の徹底」や「適期播種」等の基本技術の励行により**単収2割向上（10a当たり小麦360kg/10a、はだか麦340kg/10a）**を目指しましょう。

「儲かる」麦づくりのために <平成29年播き県麦作拡大コンクール受賞者の取組事例>

- ・事前の排水対策や複数台の播種機を用いることにより、適期に播種を終えた。
- ・土づくり肥料として苦土石灰を施用し、土壌改良を行った。
- ・播種と同時に排水溝を設置し乾田化を図るとともに、うねを高くするなど生育期間中の排水対策に努めた。
- ・香川県農地機構を活用して農地を集積し、麦の作付面積を拡大した。
- ・品質・収量の確保を図るため、天気予報を確認し、適期に一気に収穫作業を行った。

・小麦単収：319kg/10a
・はだか麦単収：289kg/10a
(香川県の平均単収)



基本技術の励行による
単収向上

平成29年播き
香川県麦作拡大コンクール
受賞者の平均単収

小麦単収 **423kg/10a**
はだか麦単収 **365kg/10a**

所得の向上・
経営の効率化

目次

- 単収向上と作付拡大で一層の麦の生産拡大を! ……1～4P
- 「農産情報」③ <2018年産麦の作柄状況と2019年産麦の需給動向> ……4～5P
- 「おいでまい」委員会からのお知らせ ……5～6P

基本技術の励行で単収2割向上を目指しましょう!

～麦づくりは水稻収穫直後から始まります!～

播種前の排水対策

水稻収穫後のコンバインのわだちや旋回跡をそのままにしておくと降雨時に水がたまり、土壌が乾きにくくなります。水稻収穫後は、速やかに排水溝をほ場のあぜ周りやほ場内に設置し、落水口と確実に連結し、雨水がほ場内に停滞しないようにしましょう。

特に排水が悪いほ場では、弾丸暗きょやサブソイラーなどで、雨水の地下浸透を促すとともに、スタブルカルチや浅耕処理により土壌表層の乾燥を促進すると効果的です。



コンバイン旋回跡



排水溝の設置



スタブルカルチの施工



ほ場のあぜ周りに排水溝(額縁明きょ)設置

県内で設置した展示ほ場では、額縁明きょ、スタブルカルチ等の組み合わせによる播種前排水対策により、土壌水分の低下や収量・品質の向上の効果がみられました。

苦土石灰やケイカルなどで土づくり!

土壌pHの低下等の原因による麦の生育不良ほ場が増加しています。作付面積の拡大に伴い、土づくりが疎かになる傾向があります。播種前に苦土石灰などの土壌改良資材を施用して土づくりを行いましょう。

原因

- ① pH低下による酸性障害
- ② 微量元素欠乏(過剰)による生理障害

対策

- ① 苦土石灰の施用
- ② ケイカル等の土づくり肥料の施用



pH5以下で生育障害が顕著



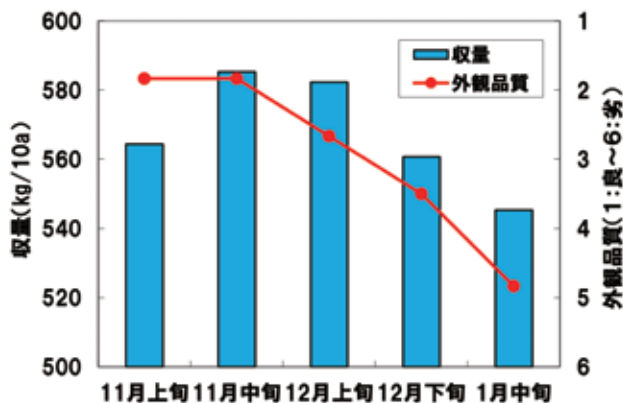
株全体の生育が不良で特に新葉が黄化

適期播種で収量と品質の向上!

播種適期の降雨により、播種が遅れたり、練り播きによる出芽不良で収量が低下する事例が見られます。

播種早限になり、土壌水分が適正になったらすぐに播種作業を開始できるように、播種機の点検などの準備を進めておきましょう。

適期に播種することにより収量は多く、品質は良くなります。一方、播種が遅れるほど、収量は減少し、品質は低下します。



「さめきの夢2009」の播種期と収量及び外観品質
(平成22~24年播の3ヵ年平均、農業試験場)



小麦、はだか麦ともに

播種早限 → **11月10日**

播種適期 → **11月15~25日**

播種後の排水対策

播種後は、管理機を用いて速やかに排水溝を設置しましょう。また、ほ場のあぜ周りにも排水溝を設置し、これらの排水溝と落水口を確実に連結しましょう。



管理機による溝付け



排水溝と排水溝の連結



排水溝と落水口の連結

初期除草剤で雑草を確実に抑える!

麦の播種後は、確実に初期除草剤を散布して、雑草の発生を防ぎましょう。初期除草剤の効果を高めるために、播種時の砕土・整地は丁寧に行います。初期除草剤の散布後に大雨が降ったり、散布が遅れるなどの原因で雑草が発生した場合には、雑草の種類や葉齢をしっかり確認し、適期に中期除草剤を散布しましょう。

麦ほ場の主な雑草



カラスノエンドウ



ノミノフスマ



スズメノテッポウ



ヤエムグラ



スズメノカタビラ

草種に応じた除草剤選択と体系処理で難防除雑草を抑える!

<除草剤抵抗性スズメノテッポウ>

トレファノサイドやハーモニーが効かない除草剤抵抗性スズメノテッポウの発生しているほ場が見られます。このようなほ場では、初期除草剤にボクサーやリベレータフロアブルを使用しましょう。また、除草剤の効果を高めるために、初期除草剤は2～3年ごとに変更しましょう。

<オオスズメノカタビラ、ネズミムギ、カラスムギ>

播種前の非選択性茎葉処理剤と播種後の土壌処理剤による体系処理が効果的です。なお、単年での根絶は難しいので、複数年の体系処理が必要です。また、ネズミムギとカラスムギは夏期の湛水も有効です。



ネズミムギ



カラスムギ

農産
情報

3

このコーナーでは「農産情報」として、米を中心に、麦や大豆など水田農業に関する様々な情報について、随時、農業者の皆さんやJA、県、市町などの関係者にお知らせします。

今回は「2018年産麦の作柄状況と2019年産麦の需給動向」について、紹介します。

2018年産麦の作柄状況

2018年産（平成30年産）麦は、10月の多雨の影響により、播種作業は大幅に遅れ、播種開始は11月上旬、播種最盛期は12月初旬となりました。その後、11～12月の降水量が平年より少なかったことから、12月末までに播種作業はほぼ終了しました。その後、2月中旬までは気温が平年より低い状態が続いたため、生育は遅れていましたが、3月以降、気温が平年よりも高く推移したため、小麦「さぬきの夢2009」、はだか麦「イチバンボシ」とともに生育の遅れを取り戻し、成熟期は平年並みとなりました。

莖数は、低温により3月1日までは平年よりも少ない状況でしたが、3月20日には「さぬきの夢2009」、「イチバンボシ」とともに平年よりも2割多くなり、穂数は「さぬきの夢2009」は平年よりも約1割少なく、「イチバンボシ」は約1割多くなりました。（農業試験場 作況試験のデータより）

最終的に、2018年産麦は、小麦「さぬきの夢2009」が1,826ヘクタール、5,847トン、はだか麦「イチバンボシ」が654ヘクタール、1,853トン【種子を除く数値、前：農業共済の引受面積、後：JAの集荷数量】となり、両麦ともに平年並みの単収となりました。しかしながら、粒の充実度や粒ぞろいなどが悪く、1等比率は小麦で70%、はだか麦で49%と見込まれます。

2019年産麦の需給動向

県産の小麦「さぬきの夢2009」は麺用小麦として国内最高価格で取引されており、また、はだか麦「イチバンボシ」も品質の良さが評価されており、折からの健康食ブームもあって需要が急増するなど、両麦とも高い需要があります。

2019年産麦の販売予定数量は、「さぬきの夢2009」で6,006トン、「イチバンボシ」で1,982トンとなっています。一方、購入希望数量は、「さぬきの夢2009」で6,469トン、「イチバンボシ」で3,769トンであり、依然として販売予定数量を購入希望数量が上回る状態となっています。

需給のミスマッチ

さぬきの夢2009 ▲463トン（購入希望数量 > 販売予定数量）

イチバンボシ ▲1,787トン（購入希望数量 > 販売予定数量）

→**香川の麦は、より一層の生産拡大が求められています!**

面積拡大、単収2割アップで需給ミスマッチを解消しましょう!

「おいでまい」委員会からのお知らせ

第3回「おいでまい」品質・食味コンクールの開催について

自慢の「おいでまい」の食味を競います!

委員会が厳正に審査を行い、上位入賞者には表彰状とともに豪華賞品を贈呈します。また、ご出品いただいた方全員に、食味分析結果と参加賞をお送りする予定です。

出品方法

J A各地区営農センターもしくは支店に準備している**出品申込書**（募集チラシの裏面）にご記入の上、募集期間内に**玄米サンプル2kg**と併せてご提出ください。

募集期間：**平成30年10月9日（火）～11月2日（金）**

申込先：最寄りのJ A各地区営農センター企画農産課、

J A各支店・出張所営農経済課



募集チラシ

出品時の主な注意事項

- ・出品料は徴収しませんが、出品物は返却しません。
- ・出品は1生産者につき1点で、平成30年産「おいでまい」に限ります。
- ・玄米水分が12%以下と16%以上の出品物は正確な分析ができないため、審査対象外となります。

Facebook、Twitterで「おいでまい」情報を発信中!

「おいでまい」関連のイベント情報や栽培情報を随時更新しています。

ぜひ、下記のURLのアカウントをフォローいただき、「いいね!」を押してください!

さぬき米「おいでまい」

Facebook <https://www.facebook.com/kagawa.oidemai/>

twitter https://twitter.com/kagawa_oidemai

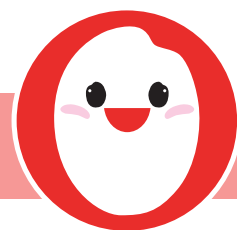


Facebook



twitter

「おいでまい」栽培者の登録について



2019年産からは、より一層のブランド化を図るため、要件を満たす方を、「おいでまい」栽培者として登録します！

「おいでまい」シンボルマーク

「おいでまい」栽培者が守るべき主な事項

- (1) ライスグレーダーの篩目は、1.85mm以上を使用する。
- (2) 「おいでまい」の種子、苗が余った場合は適切に処分し、決して他者に譲渡しない。自家採種もしない。
- (3) 販売を目的とした栽培とし、飯米など自家消費を目的とした栽培や未検査米での出荷はしない。
- (4) 収穫した「おいでまい」については、農産物検査と食味分析を受け、その結果を報告する。

■ 綾川町の栽培者及び作付拡大地域のJAカントリーエレベータ出荷者

- ・綾川町の栽培者及び作付拡大地域のJAカントリーエレベータ出荷者は自動的に「おいでまい」栽培者として登録となりますので、特に手続きは必要ありません。
- ・種苗の購入実績等の情報は、「おいでまい」委員会が別途JAから収集しますのでご了承ください。
- ・「おいでまい」栽培者が守るべき事項を遵守した上での栽培をお願いします。

■ 倉前出荷者

○2018年産（平成30年産）「おいでまい」認定栽培者の方

2019年産「おいでまい」の栽培を希望する場合は、登録要件を満たしていれば、継続して栽培が可能となりました。改めて書類を提出していただく必要はありません。

○2019年産から新しく「おいでまい」の栽培を希望する方

登録要件を満たしていることをよく確認した上で、下記のとおり**栽培誓約書**をご提出ください。

① 受付期間

平成30年10月9日（火）～平成31年1月31日（木）

② 書類の入手方法

2019年産「おいでまい」栽培実施要領、栽培者登録要領（「栽培誓約書」を含む。）等の必要書類は最寄りのJA香川県各地区営農センター及び支店に準備しています。

（香川県ホームページ「さめぎの農産物応援団」、JA香川県ホームページからもダウンロード可）

③ 栽培誓約書の提出先

2019年産「おいでまい」栽培誓約書を作成し、最寄りのJA各地区営農センター又は支店にご提出ください。

倉前出荷者が2019年産「おいでまい」栽培者として登録されるための主な要件

- (1) 乾燥機、粳摺り機、ライスグレーダー等の乾燥調製設備を装備していること。ただし、他の「おいでまい」栽培者に育苗や乾燥調製作業を委託、あるいは共同で作業を行う場合はこの限りでない。
- (2) 平成30年産水稻の平成31年1月末までの農産物検査実績があること。ただし、平成30年産「おいでまい」認定栽培者は、平成31年1月末までの「おいでまい」の農産物検査実績があること。

詳しくは、JA窓口準備している「2019年産『おいでまい』栽培者募集案内」をご覧ください。

「おいでまい」についてのお問い合わせ先

- 「おいでまい」委員会事務局

（香川県農政水産部農業生産流通課 農産グループ）

TEL : 087-832-3418

- JA香川県（本店）営農部農産販売課

TEL : 087-818-4109